

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月1日

【評価実施概要】

事業所番号	0372600262
法人名	株式会社シリウスケアサービス
事業所名	グループホーム平泉
所在地	岩手県西磐井郡平泉町平泉字日照田133-2 (電話) 0191-46-5662

評価機関名	財団法人岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1		
訪問調査日	平成20年10月10日	評価確定日	平成20年12月1日

【情報提供票より】(20年 9月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 ^{平成} 16年11月3日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7人、非常勤 1人、常勤換算 5人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	食費に含む 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	81 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下河辺胃腸科クリニック
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成16年にシリウスケアサービス社が開設したグループホーム平泉は、平泉駅から車で5分南下した県道沿いに位置し、昔もそうであったろうと思える広大な田園に囲まれており、おだやかな環境のもとで生活されている。若いホーム長のもと、職員の年代がバランスよく配置されている。利用者は81歳から100歳、平均年齢は88歳と、他のグループホームよりも高齢な利用者が多いように感じるが、利用者一人一人の個性や希望に沿った援助がなされており、とても賑やかに元気で過ごされている。利用者は勿論、職員も一緒に「今日も一日いいがあったなあ」と思えるようでありたい。と、ホーム長が話しているとおり、ゆったり、明るい雰囲気、漂っているホームである。また、この言葉をホームの理念としており、簡潔でありながら意味の深い理念となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	マニュアルの見直しを行った。2名一組がチームとなり、各チームの課題に必要な情報を本やインターネットから取り寄せ、既製のマニュアルや用意していない部分のマニュアルを基に、職員全員で検討して誰が見てもすぐ分かりやすい一つの冊子にまとめ、事務室に置いて利用している。実際にホームで行っている仕事に沿ったマニュアルとなっている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で検討を行ったものを管理者がまとめている。非常に素直な気持ちで評価されており、質の向上を目指す姿が評価に表れている。また、職員の仕事の見直しや外部評価の意義を理解し、共有できるよう話し合いを持っている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	出席者が4, 5人程度で、偶数月に行われている。運営推進会議構成メンバーは町保健センター主任、区長、民生委員、利用者のご家族、ホーム長、職員となっているが、行事の報告が中心となり、活発な意見には至っていないように思える。大きな地震の多い年であるため、夜間の介護体制を心配する声も聞かれているので、消防署や地元警察からの参加を要請してご理解、ご協力を得ることにより、より活発な意見が聞かれることと思われる。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	要望箱を設置しているが、特に要望等意見が入っていたことが無い。面会に来られた際にご意見を伺えるよう声掛けや報告をしている。ヘルパーの資格を取るにはどうすればいいか?等の相談もあった。本社には福祉担当のスーパーバイザーがいるので、ホーム長自らも助言を求めやすい環境となっている。現在までに特に問題は無い。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	区長や民生委員を通じて声がけをしており、徐々に連携が増している。地域に馴染めるよう挨拶を大切に心懸けている。ご近所から野菜をいただいたり、農作業に側の田んぼに来られた時には声をかけていただいております。お礼に芋煮会を予定している。また、地域の学校行事に招待を受け出かけた後、老人会と交流が持てるよう区長を通して働きかけている。今後の連携の広がりを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「今日も一日いがったなあ・・・」と思えるよう「人と人のつながり」「愛あるケア」を意識し、利用者も職員もひとつの輪になって地域と共に生活できることを目標としており、ホームの食堂、廊下に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常の姿を理念にしており、改めて唱和しなくても、自然に取り組んでいる。職員は利用者の希望や個性を優先し、持っている力を発揮できるよう支援されていた。また、利用者は勿論、職員も共に「今日も一日いがったなあ・・・」と思えるホームを目指している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ご近所から野菜をいただくことも多く、交流もあるが、平均年齢が高いため、無理に出かけたりはしていない。逆に地域の方を受け入れており、今後とも地域の方が気軽に立ち寄れるホームを目指している。また、老人クラブの方々と親交を深めていきたいと希望している他、中学校へ音楽鑑賞へ行く予定もある。	○	ご家族に広報を配布しているが、地域の方々の理解と交流を深めるため地区で広報を回覧する他、警察、消防、保育園や小中学校等に配布し、グループホームをもっと知っていただけるよう働きかけることによって、より地域からの理解が深まることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の項目を全職員が自己評価し、わかりにくい項目は、ホーム長が説明して職員の理解を深めることにより、利用者の支援や活動の意義・見直しが図れるよう皆で取り組まれていた。外部評価の結果は玄関に掲示されており、誰でも見るようにしてあった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホームからの報告や予定、課題について区長、民生委員、保健センター等メンバーよりその時々助言や協力をいただいている。参加メンバーの広がりにより、より活発な意見が期待できるように思われる。		消防署、警察署などにも声をかけると、多々発生する問題に対して対処の幅が広がるので、委員のメンバーに起用することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	保健センターから協力をいただき、一関市の栄養士による栄養指導等勉強会を実施した。グループホームについて栄養士もあまり知識がなく、お互いにより知識が深まる結果となった。また、グループホームに適した料理の本も紹介していただき献立に活かしている。		今後も行政に協力や指導を働きかけ、有効に活用することを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、手紙、広報、電話で報告している。広報は2月に1回、また利用者個々の体調の変化のみられるときには随時電話連絡等している。事業所として金銭は預かっていないが、自分でお小遣いを管理している利用者もあり、金銭が必要な場合はホームで立替え、後日、その他の費用とまとめて請求している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、利用されていない。家族からの相談や意見のあった際はホーム長が対応しており、不在の場合には申し送りノートを利用している。また、ノートの情報の共有し、職員が目を通したことが確認できるよう印を押している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員は出来るだけ早く馴染むため、利用者や職員共にコミュニケーションを多く取れるように、かかわる時間を長く持つようにしている。また異動した職員に対して利用者から面会の希望があり、職員と再会した際、その事業所の利用者との交流ができ、交流が広がった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務の都合上、内部研修の機会が少なく、外部研修にもっと参加させたいと思っている。外部の研修には交代で参加しており、参加した職員が職員会議の時に研修内容を報告している。内部研修は少ないが、マニュアルの見直し等を実施することにより、より深い内部研修がなされていると思える。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奥州市内にある同法人の3グループホームで交流を持っており、情報のやりとり、相談を実施している。他のグループホームとの交流により、自分たちの優れている面や、新たに組みたい課題も見えてくることと思われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に家庭に伺って本人、家族とアセスメントを行い、ホームを見学してお茶を飲みながら過ごしたり、家族が直接利用者と話し合う等、時間をかけて馴染める様に努力している。また、現在介護サービス等を利用している方は、ケアマネから情報提供していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の意思疎通を大切に支援しており、利用者の個性や希望、生活歴を活かしている。ピアノを弾く利用者のためにピアノを準備し、他の利用者と一緒に練習して弾けるようになってきている。絵を得意としている利用者に対しては、ホーム全員の似顔絵を描いてもらって飾るなど、職員と共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分から言葉で表せない方、難聴の方には表情や、声掛けを工夫しながら、ご本人の意向をくみ取れるよう支援がされており、職員全員が祖母、祖父と孫のような関係を持ち、ほほえましく接している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望や体調観察等により随時のスタッフ会議を通して計画担当者がプランの作成後、全職員でケア会議の中で再検討を行い、職員の意見を取り入れたプランとなっている。あくまでも本人の立場に立って計画を作成することを基本としている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直し・検討の他にも、面会時や電話により家族と連絡を取り、状態の変化に応じて随時プランの見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会時間は特に設けていない。また、外出や外泊もご本人やご家族の希望に応じている。通院は基本的にはご家族の対応としているが、遠方に住んでいるご家族には職員の対応も可能となっている。また、医師に日常の状況説明等必要と思われる場合には職員も通院に同行している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医の利用を基本としている。また、病院への通院は家族が行うこととしているが、状況に応じてホームで対応する場合があります。状況を説明している。本人の希望により紹介状をいただき、近くの医療機関に変更された例がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に、家族へ状況変化時のホームでの対応について説明している。また、契約書等でも長期入院が必要となった場合の退去等記載されている。運営規定にも記載しているが、実際には重度化、終末期ケアを行った事例は無い。	○	利用者の高齢化に伴い、今後重度化、終末期の理解や勉強をしながら、家族や医療機関との連携をさらに密にする必要がある。グループホームの指針を定めてマニュアルを作成し、利用者・ご家族・職員が納得できる対応が共有できることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	コンプライアンスマニュアルを活用している。職員会議の中で、自分が嫌なことはしない、同じ目線で話す等、話し合いがもたれている。また、家庭的であっても利用者と職員の一線は大切にしたいと考えており、個人の尊厳を大切に、利用者の上に立たない様に自然に会話を交わしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人に担当を一人決めて、細やかな状態観察ができるよう配慮している。個性を尊重し、体調を考慮し押し付けとならない援助が出来るよう臨機応変にケアしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の作成時には希望を聞いている。米とぎや茶碗拭き、テーブル拭き等利用者も一緒に行っていた。職員は状態変化に柔軟に対応しながら希望を聞いている。ホーム長が若い男性でもあり、大丈夫か?と心配し声をかけて来られる利用者もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は14時から16時まで。または14時から17時の二通りある。毎日入浴を希望される方もいるが、入浴拒否のある利用者には職員から声掛けの工夫をしてみたり、清拭で対応している。また、利用者から利用者へ入浴の声を掛けて誘導するなど、工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ピアノの上手な利用者や絵が好きな利用者等、ご本人の特技や希望による支援がされており、全体的に明るく楽しく支援を行っている。また、百歳のお祝いをしたときは、利用者の皆様でこれからもお互いに頑張りたいと、よい励みとなっている。		法人の方針により、80歳を越えた利用者には全員に賞状が贈られており、各部屋に飾ってあった。利用者に誇りと自信を与える、大変効果的な支援方法である。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所には有名な観光地もあり散歩に出かけることがある。桜、紫陽花、菖蒲等その時々のお花見をしている。近くのスーパーに買い物やドライブ、外食、家族と墓参りなど、利用者の希望を取り入れながら支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関・非常口には鍵をかけてはいないが、センサーにより予期しない外出が無いように注意を図っている。反応した場合は職員が確認している。夜間は安全・防犯のため鍵をかけている。常に利用者一人一人の所在の確認を怠らないよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回(消火訓練、避難訓練)が消防署の協力で行われている。今年には大きな地震もあり夜間の避難体制等地域の方からも心配する声を掛けていただいている。	○	地域住民の関心と協力がいただけるよう、避難訓練に参加していただき、利用者の顔を覚えてもらうことにより利用者や職員も安心して生活できるグループホームとなることと思われる。また、警察署、消防署にも指導と協力を頂けるよう、今後も各所へ継続した働きかけを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業務日報に記入されている摂取量、水分量のチェック表を活用しながら、個々に合った支援をしている。保健センターの栄養士に栄養バランスチェックをしてもらっている。今後は嚥下状態の変化等、利用者の変化が予測されるので、栄養士からの継続した協力を期待したい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	簡素だが無駄の無い造りで、廊下には吹き抜けがあり間接的に採光出来る構造となっている。ご近所には昔ながらの落ち着いた雰囲気の家が点在しており、広々とした田んぼや畑に囲まれ、豊かな環境のもとで生活されている。	○	交通量が多い県道と庭が接していることにより、利用者の安全を考慮すると門扉があれば、事故を予防できるのではないかと。また、収納スペースが不足しているように思われた。廊下に現在使われていないものが置いてあることにより、諸事情を知らない来客者にとっては廊下等の整理が出来ていないと判断される可能性もあると思われる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた箆笥、ピアノ、等思い思いの物が持ち込まれ利用者個々の個性ある部屋で過ごされていた。また利用者や職員の似顔絵や草花の絵を部屋いっぱいに飾られている利用者は若い時には絵を描く時間もなかったもので、今は好きな絵を楽しんで描いているとのこと。		